

ニューズレター No.109

発行人 谷川 裕稔

2019(令和1)年10月1日発行

日本リメディアル教育学会、ニューズレターNo.109をお届けいたします。今回は、

- (1) JADEによる定義:「リメディアル教育」概念
 - (2) 2019(令和元)年度理事会および総会の報告
 - (3) 第15回全国大会開催報告
 - (4) 第2回授業実践フォーラム・第11回九州・沖縄支部会の開催のご案内
- についてお知らせいたします。

JADEによる定義:「リメディアル教育」概念

(会長 谷川 裕稔)

この度、日本リメディアル教育学会(JADE)の会長2期目を仰せつかりました。新たな気持ちでJADEの運営に臨む所存です。

日本リメディアル教育学会(以下、JADE)第15回全国大会の総会(2019年8月27日)にて、「リメディアル教育」概念についてのJADEによる定義が承認されました。

以下の通りです。

- (1)JADEの学会名の「リメディアル教育」は「学習・学修支援」と同義とする。
- (2)「(1)」を前提として「リメディアル教育」の定義は「大学院生を含む高等教育機関に学ぶ全ての学生と入学を予定している高校生や学習者に対して、必要に応じてカレッジワークに係る支援を高等教育機関側が組織的・個別に提供する営み、またその科目・プログラム・サービスの総称」(下線部、谷川)とする。

この定義では「学習」は「学修」を包摂する広い概念と捉えています。「学習・学修支援」と併記した理由は、「学習」と「学修」に関する確とした概念区分が高等教育場面ではみられていないからです。

(2)下線部の「必要に応じて」の意味のなかに、対象とする学生として①基礎学力向上を目指す者のみならず、②カレッジレベルの学力はあるが更にそれを伸ばそうとする者、を含めました。加えて③卒業生も活かすことのできるスキル(キャリア系教育支援も含む)の習得も織り込みました。

定義の確立は、JADEによる研究や教育実践が「単位非認定」の支援・科目はもちろん、「単位認定」のそれらにも関わる営み、ということの確認を得る契機となりました。ちなみに、「高等専門学校」に学ぶ全ての学生が同定義の対象になるということも、今回の総会で確認されました。

会員の皆さまにおかれましては、今後、この「定義」をもって研究・教育を進めていただけましたら幸いです。

2019(令和元)年度理事会および総会の報告

令和元年 第6回理事会において 谷川 裕稔 会員(四国大学)が会長に再選されました。

総会では以下の内容が質疑応答ののち承認されております。

- (1) 2018年度事業報告
- (2) 2018年度会計監査報告
- (3) 2019年度事業計画(案)
- (4) 2019年度予算(案)
- (5) 2019年度～2021年度役員候補者選出開票結果
- (6) 「リメディアル教育」概念の確立
- (7) CRLA:Japan Chapter(日本支部会)国際大会の実施&支部会費支払い。

(1)～(5)につきましては、後日MLにて資料を配信いたします。
(6)につきましては、本ニューズレター、ホームページに詳しく記載されております。

第15回全国大会開催報告

第15回全国大会は、2019年8月26日(月)～28日(水)の会期中に金沢工業において開催されました。全国の大学等からの208名に会場校の教職員40名以上が加わり、合計248名を超える参加者を迎え、各会場で熱心な討論が交わされました。キャンパスを提供いただきました金沢工業大学様に感謝を申し上げます。

今年度の大会テーマは「新たな学びのかたちと学習支援」としました。新学習指導要領の実施により、高校までの学習のかたちが

大きく変わり始め、大学にもこれまでと異なった学習観をもった学生が入学します。大学としては入学する学生に対応できる教育体制と学習支援が必要となります。

そのため、大会 2 日目は学習支援における先進的な取り組みを行っておられる美馬ゆりの先生(はこだて未来大学)をお招きし、基調講演「学習の変革に向けてー自己調整学習者を育てるー」をいただくとともに、現地企画として金沢工業大学の学習支援について紹介を行い、活発な議論が行われました。



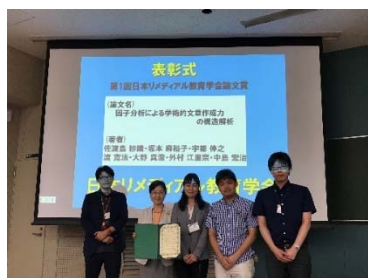
基調講演

全国大会の大きな柱である一般発表については、多くの会員から応募をいただき、審査の結果、37 件の口頭発表と 14 件のポスター発表がありました。専門部会による企画として、英語、医療系部会、ICT 活用教育部会、学習言語部会、理数系部会、日本語部会、学習支援部会の合計 8 件のラウンドテーブルやパネルディスカッションが行われました。

さらに、全国大会に合わせて行った金沢工業大学の施設見学には、学生スタッフや教職員の案内のもと、学習支援コースと夢考房コースに 70 名以上の参加がありました。

本大会の開催にご協力くださいました多くの方々に御礼申し上げます。

なお、来年度の全国大会は、愛媛大学(愛媛県松山市)で開催いたします(2020 年 8 月 19 日(水)~21 日(金)の予定)。



第 1 回日本リメディアル教育学会論文賞の授賞式

第 2 回授業実践フォーラム・第 11 回 九州・沖縄支部会開催のご案内

第 2 回 授業実践フォーラムおよび第 11 回 九州・沖縄支部会大会を下記のとおり開催いたします。フォーラムの HP は[こちら](#)になります。

JADE の会員はどなたでも発表および参加できます。また、学会員でない方も参加可能です。奮ってご参加ください。なお沖縄行き航空機の一部満席の便もあるようです。早めのご予約をお勧めします。

1. 基本情報

日時: 2019 年 11 月 23 日 (土) 10 時 00 分~16 時 30 分(大会後、情報交換会あり)

会場: 沖縄産業支援センター

沖縄県那覇市字小禄 1831 番地 1

TEL098-859-6234

<https://www.okinawa-sangyoushien.co.jp/>

アクセス: 那覇空港から車で 10 分程度の場所にあり、タクシーまたは路線バスの利用が便利です。

2. 内容

- (1) 授業実践フォーラム(1 件 60 分[発表 20 分+質疑 40 分])
- (2) 九州・沖縄支部総会
- (3) 個人研究発表(1 件 20 分[発表 15 分+質疑 5 分])
- (4) 情報交換会

3. プログラム

9:30~10:00 受付

10:00~11:00 授業実践フォーラム Part1

11:10~12:10 授業実践フォーラム Part2

お昼休憩(近くにコンビニ等がございます)

13:20~13:30 九州・沖縄支部会開会行事・総会

13:40~16:35 研究発表

15:00~16:35 チューターフォーラム

18:00~20:30 情報交換会(別会場)

4. 授業実践フォーラムおよび研究発表の募集について

(1)発表資格:学会当日までに年会費(過去の未納分を含む)を納めた JADE の個人会員であること。連名の場合は、筆頭者が会員であること。

(2)申込み締切 :10月12日(土)

(3)採択結果通知 :10月19日(土)

(4)予稿集原稿締切:11月1日(金)

(5)申込み:[「発表申込みフォーム」](#)

(6)原稿フォーマット:採択結果の通知時に添付(全国大会に準ずる)

5. チューターフォーラムについて

(1)フォーラムの目的:異なる学習(支援)センターの取り組みとその課題を情報共有し、共に解決策を見出すことによって、効果的な学習支援とは何か、チューターの目線で考える機会を提供します。

(2)フォーラムの内容:学習支援者(チューター)システムを運営している4大学の現役のチューターたちが、各センターの取り組みを紹介し、その課題について発表します。その後、グループディスカッションを通して、共に解決策を探ります。

(3)参加について:すでに4大学(大手前大学、神田外語大学、琉球大学、名桜大学)の教職員、学生の参加が予定されています。参加されたい大学または個人の方がいらっしゃいましたら、大会実行委員長 笠村までご連絡ください。

6. 参加の申込について

(1)受付け締切:11月16日(土)*当日参加も可

(2)受付け方法:[「参加申込みフォーム」](#)

(3)参加費:無料

(4)情報交換会:場所・予算は決まり次第連絡します

(5)宿泊先:学会では斡旋はしておりませんので、各自予約

7. 問い合わせ先

(_at_ は@に直して送信してください)

(1)九州・沖縄支部大会実行委員長
笠村淳子(名桜大学)

TEL:0980-51-1229(代) E-mail:j.kasamura_at_meio-u.ac.jp

(2)JADE九州・沖縄支部会支部長

江原由裕(九州龍谷短期大学)

TEL:0942-85-1121(代) E-mail:chara_at_k-ryukoku.ac.jp

会費納入のお願い

2019年度の会費納入を、まだされていない方は会費の納入をお願いいたします。

3月上旬に来年度の会費納入の案内をお送りいたしました。かねてよりお知らせしていますように、2018年度総会で、以下の通り本年度からの会費の改定が決定されました。

個人会員 年会費 6,000円

大学会員 年会費 12,000円

賛助会員 年会費 30,000円

日本リメディアル教育学会はここ5年毎年赤字を続けており、このままでは将来的に資金が不足して学会運営が困難になることが予測されます。会費値上げの主な背景には、事務局業務の外部委託や学会誌への投稿システムの導入やJ-Stageへの対応などがあります。

外部委託は会員の負担軽減を意識したものです。最近、高等教育機関の教員の公(校)務は、なべて激務で、学会の事務局の業務を兼務することは困難な状況になっております。本学会の運営のために、会費の値上げにご理解くださいますようお願い致します。

会誌への論文等の投稿について

会誌『リメディアル教育研究』では、リメディアル教育に関する研究、教材や教授法の開発と評価、実践の報告などについての原稿を募集します。投稿は本会の会員が筆頭者であるものに限り(編集委員会が特に認めた場合は、非会員からの論文等を掲載することもあります)。掲載の採否は、査読審査を経たのち、編集委員会において決定します。原稿料の支払い、掲載料の徴収はいたしません。

【文責】藤田 大雪